

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	①作成日 令和 年 月 日		
②法人・団体名	NPO法人学習支援ループス		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	北海道釧路市武佐1丁目5-3		
④責任者氏名	山本 享幸	(役職名等)	理事長
⑤担当者氏名	山本 享幸	(役職名等)	理事長

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R06-004	⑦助成金額	50万円	⑧申請カテゴリー	C
⑨奨学活動名	『学ぶ』『食べる』からさらに『つながる』場所づくり				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	ループス武佐教室 北海道釧路市武佐1丁目5-3				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

平日月曜日から金曜日の16:00～19:00、放課後の時間に宿題サポートを中心とした学習支援活動を展開いたしました。現在オンライン生を合わせ48名の児童生徒が利用をしてくれています。

今年度はオンラインサービスの中に学習教材『天神』を導入したことで、動画編集サークル、芸術サークルの二つを課外活動としてスタートさせることができました。動画編集のスキルを身に付けたことから自信を取り戻し、復学を果たした児童や楽器演奏により目標を見つけ、学習にも意欲的に取り組めるようになった生徒など一人一人が等身大の自分を見せながらそれぞれの個性を生かし、仲間として困難を超えていくことができるようになりました。

就業支援という新たな分野への挑戦も始め、『金融知識』『AIの知識』『コミュニケーションスキル』のオンライン講座から、リアル講座として『YouTuber体験』『屋台体験』『防災士体験』『塗装屋体験』『コンサルタント体験』『歌手体験』など様々な職業への興味関心と技術に触れる機会を作り出すこともできました。

2025年1月からは送迎サービスも始め、よりたくさんの児童生徒が就業支援へ触れることが可能になり、2025年度は釧路地域の児童生徒へさらに『輝く力』を磨くために支援を展開してまいります。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A:人)	平均時間 (B:時間)	活動量 (A×B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	380	2	760	通学教室利用者延べ時間
高校生等	0	0	0	
大学生等	0	0	0	
学習支援員等	180	2	360	ボランティアスタッフ
その他	660	1	660	職業体験、就業支援参加者
合 計			1220	

令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：

法人・団体名：

作成者 氏名：

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

学習支援・・・釧路近郊3教室(月曜～金曜開室)での学習支援を行い、「楽しい学びの場をつくること」を目指します。

こども食堂...上記各教室で毎月1回「みんなで食べる機会」を作り、「学校」「家庭」ではない子供にとって「第三の居場所」を作ります。(毎月最終週の学習支援時実施)

イベント活動・・・イベント開催を通じ、子供たちが様々な人と触れ合いながら学ぶ機会を作ることで、「多様性の尊重」を養い、「温かみのあるコミュニティの形成」を図ります。(年2回の家族まつりの開催・職業体験教室の実施)

オンライン教室・オンライン教室を使った学習機会を提供し、休学による「学力の低下」、「コミュニティからの孤立」などを防ぎ、社会や学校との「繋がり」を作ります。(オンライン教室の中に動画学習教材を配置し、自主学習の助けをする他、不登校から社会復帰を果たしたスタッフとオンライン上で繋がり、悩みを相談したり会話ができる空間を作る。

上記4つの項目を実施する中で、オンライン上の「つながり」をこども食堂やイベントでの「つながり」に広げ、後には毎週の学習支援教室への参加、そして復学や社会復帰へと繋げる。

2. 実施した奨学活動の詳細

【実施内容と目的】

学習支援・・・釧路近郊3教室(月曜～金曜開室)での学習支援を行いました。平日月曜日から金曜日の16:00～19:00、大学生ボランティアと社会人講師を中心とした若いスタッフによる学習指導を展開しました。現在オンライン生を合わせ48名の児童生徒が利用をしてくれています。



こども食堂...各教室で毎月1回「みんなで食べる機会」を作り、「学校」「家庭」ではない子供にとって「第三の居場所」を作りました。(毎月最終週の学習支援時実施)こども食堂の会話の中からサークル活動の要望があり、動画編集サークル、芸術サークルが誕生しました。動画編集サークルではショート動画の作成、ゲーム配信を実施。市内のイベント会場にて『YouTuber体験』の出店をしました。芸術サークルでは学習支援送迎車のラッピングイラストを描いたり、楽器演奏を体験しました。



こども食堂の様子と送迎車、YouTuber体験の様子

イベント活動・ 8月に夏祭り、2月に家族まつりの大型イベントを実施したほか、塗装屋体験、防災士体験、屋台体験、歌手体験などたくさんの職業体験を作り出しました。



オンライン教室・オンライン教室を使った学習機会を提供し、休学による「学力の低下」、「コミュニティからの孤立」などを防ぎ、社会や学校との「繋がり場」を作りました。動画学習教材『天神』を利用し、学ぶことの下支えをしたうえで、スタッフとのオンライン上でのコミュニケーションをとれる場を作っています。2025年1月からはスキル講座を準備し『AIの使い方』『上手な問題解決のコツ』『伝わる資料の作り方』『暮らしのお金を考えてみよう』などのスキル講座を試験開始。生きるために必要な知識や技術に触れる場作りをスタートしました。



3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

釧路地域は、自然豊かな環境と豊富な水産資源に恵まれた一方で、人口減少や産業構造の変化といった課題を抱えています。子どもを取り巻く家庭環境も経済的に厳しい現状があり、単なる「学習機会を補完していただくだけでは変えられない未来があること」を日々の支援の中で痛感しています。以下が課題です。

1. 高校卒業後の進学率

釧路地域の高校卒業後の進学率は、下記の理由から全国に比べ低い傾向にあると考えられます。

経済的な理由: 地域産業の衰退に伴い、家庭の経済状況が厳しくなり、進学を諦める学生がいる。

進路選択の幅: 都市部と比較して、進学できる大学や専門学校の種類が限られているため、進学を諦める学生がいる。

2. 他市町村への移住率

移住の主な原因としては、以下の点が挙げられます。

就職機会の不足: 地域産業の衰退に伴い、地元での就職機会が限られていることが挙げられる。

結婚や子育て: 結婚や子育てを考えた際に、都市部の方が子育て支援が充実していると考えられる。

3. 学習環境の課題

教育資源の不足: 都市部と比較して、塾や予備校などの教育資源が不足している地域もあり、学習の機会が限られている。

教員の負担増: 少子化による学校の統廃合が進み、教員の負担が増加している。

情報格差: 都市部と比較して、インターネット環境や情報へのアクセスが遅れている地域もあり、情報格差が問題となっている。

上記の理由から、豊富な自然環境を生かした「地元産業と子どもたちを繋ぐ支援」が必要であると考えています。

また、地域に関わらずみられる課題として、義務教育期には様々な支援が受けられたものの、進学後は受けられる支援が無く、結果「生きる力」を身に着けることができずに「社会人として自立できない」という観点からも、学び支援の中に「生きる力」の育成『就業支援』が必要であると考えています。